

令和7年度学校安全指導者研修会 開催報告 | 開催概要

各地域における学校安全に関する研修講師等となる者に対して、効果的な研修会実施に関する必要な知識などを習得させ、各地域における研修会の質の向上を図ることを目的として令和7年度学校安全指導者研修会を実施しました。

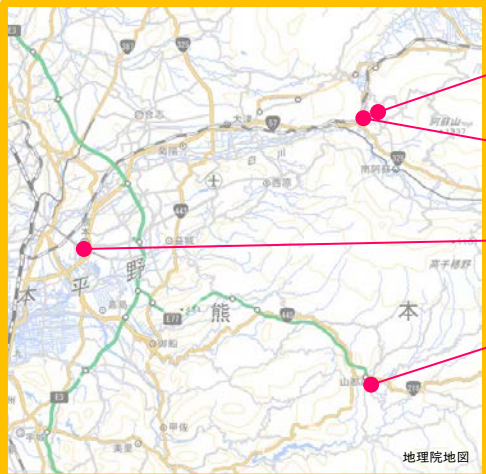
開催概要

実施日：令和7年11月27日(木)・28日(金)
開催場所：熊本県(熊本市・山都町・南阿蘇村)
主催：文部科学省
参加者：79名※ ※各都道府県・市区町村教育委員会の学校安全に関する指導担当者、学校教職員(学校安全の推進をするための中核となる教職員)

研修カリキュラム

1日目(11/27)			
研修		テーマ	研修講師等
研修① 視察(120分)		熊本地震について学ぶ	熊本地震震災ミュージアム KIOKU 研修 アドバイザー 竹内 裕希子 氏 (熊本大学 副学長・教授)
A班	研修②-A 講義・視察(60分)	生徒が主体となった 交通安全の取組について学ぶ	熊本県立矢部高等学校
B班	研修②-B-1 講義・視察(75分)	工夫を凝らした学校安全の 取組について学ぶ	熊本市立砂取小学校
	研修②-B-2 講義(30分)	熊本市教育委員会の 防災教育推進に関する取組	村上 陽明 氏 (熊本市立城西小学校 教頭, 前 熊本市教育委員会 指導主事)
2日目(11/28) 会場:熊本城ホール			
研修③ 講義(80分)		平成28年熊本地震及び令和2年7月豪雨 における学校現場の対応を学ぶ	竹内 裕希子 氏 (熊本大学 副学長・教授)
研修④ 講義(40分)		令和6年能登半島地震 における学校現場の対応を学ぶ	山岸 昭彦 氏 (石川県教育委員会 奥能登教育事務所 所長)
研修⑤ 講義(80分)		事故・災害発生時の 心のケアを学ぶ	藤森 和美 氏 (武蔵野大学 名誉教授)
研修⑥ 講義(30分)		事故の原因究明と再発防止 のための取組について学ぶ	下田 直輝 氏 (熊本県教育委員会)
研修⑦ グループ協議(70分)		事故・災害時の事後対応 について検討する	社会安全研究所

視察先



- 熊本地震震災ミュージアム KIOKU
- 数鹿流崩・阿蘇大橋
- 熊本市立砂取小学校
- 熊本県立矢部高等学校

研修①

熊本地震について学ぶ (熊本地震震災ミュージアム KIOKU)

「熊本地震震災ミュージアム KIOKU」視察では、震災遺物の展示や当時を振り返るシアター等を見学し、平成28年に発生した熊本地震の状況を学びました。また、視察後は参加者による意見交換を行い、理解を深めました。



KIOKU視察の様子

研修②-A

生徒が主体となった交通安全の取組 (熊本県立矢部高等学校)



取組の紹介



二輪車競技部の練習見学

原付通学をする生徒が多く、交通安全に関する先進的な活動を推進している「熊本県立矢部高等学校」を視察しました。活動をご紹介いただき、全国唯一の二輪車競技部の練習見学を通じて、交通安全の取組を学びました。

研修②-B

工夫を凝らした学校安全の取組 (熊本市立砂取小学校)

熊本市立砂取小学校では、校内での事故発生を防ぐ施設設備の工夫を視察しました。また、教職員・児童が参加したミニ避難訓練の様子をご紹介いただくなど、安全意識を高める様々な取組について理解を深めました。



校内視察の様子



取組の紹介

数鹿流崩・阿蘇大橋の視察

崩落した旧阿蘇大橋の現場を視察しました▼



▲数鹿流崩の現場や地表地震断層を視察しました

研修②-B-2

熊本市教育委員会の学校安全推進に関する取組

熊本市教育委員会の防災教育推進に関する取組を村上氏よりご報告いただきました。熊本市の防災教育副読本、緊急連絡アプリ、企業や消防等と連携した防災教育の実施など、様々な取組をご紹介いただきました。

研修③ 平成28年熊本地震・令和2年7月豪雨時の学校現場の対応

平成28年熊本地震及び令和2年7月豪雨発生時の学校現場の状況や課題を竹内氏よりご紹介いただきました。学校現場へのヒアリング調査等により得られた知見を通して、災害時に学校が直面する様々な課題を学びました。



講義の様子

研修④ 令和6年能登半島地震における学校現場の対応



講義の様子

珠洲市(石川県)で取り組まれていた防災教育に関する内容及び、令和6年能登半島地震発生時の学校現場の状況を山岸氏よりご紹介いただきました。発災～学校再開までの事例を基に学校・学校安全指導者に求められる役割を学びました。

研修⑤ 事故・災害発生時の心のケア

事故・災害発生時の心のケアについて、藤森氏よりご講話いただきました。心のケアの必要性や、ストレスに対する子どもの様々な反応、児童生徒等への支援のポイントを学びました。



講義の様子

研修⑥ 事故の原因究明と再発防止のための取組



講義の様子

令和6年に発生した落雷事故後の基本調査及び詳細調査の概要、調査結果を踏まえた再発防止への取組を熊本県教育委員会よりご報告いただき、事故・災害発生後に求められる取組について理解を深めました。

研修⑦ グループ協議「事故・災害時の事後対応について」

文部科学省「学校事故対応に関する指針【改訂版】」を基に、事故・災害発生後の基本調査を模擬体験し、調査の方法や要因分析の考え方に関する理解を深めました。

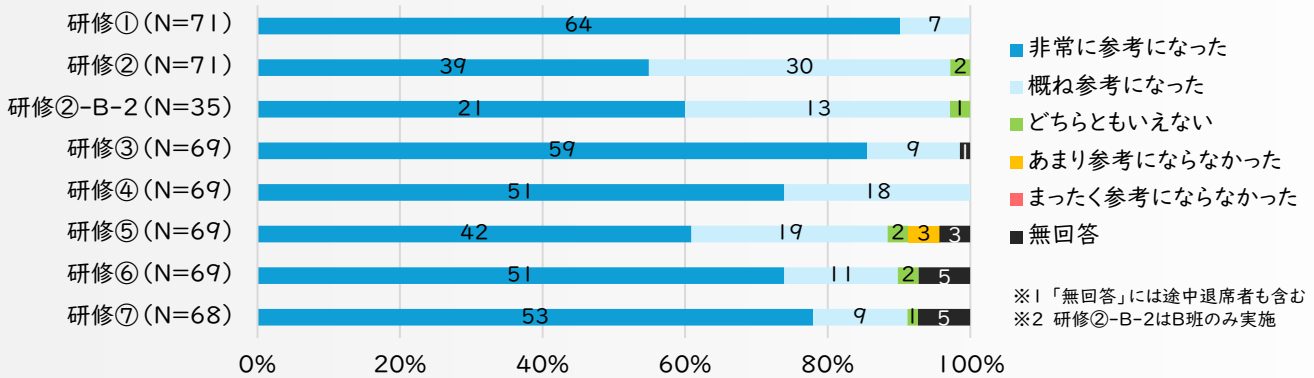
最後に、今後の学校安全に関する取組を検討し、各班で発表しました。



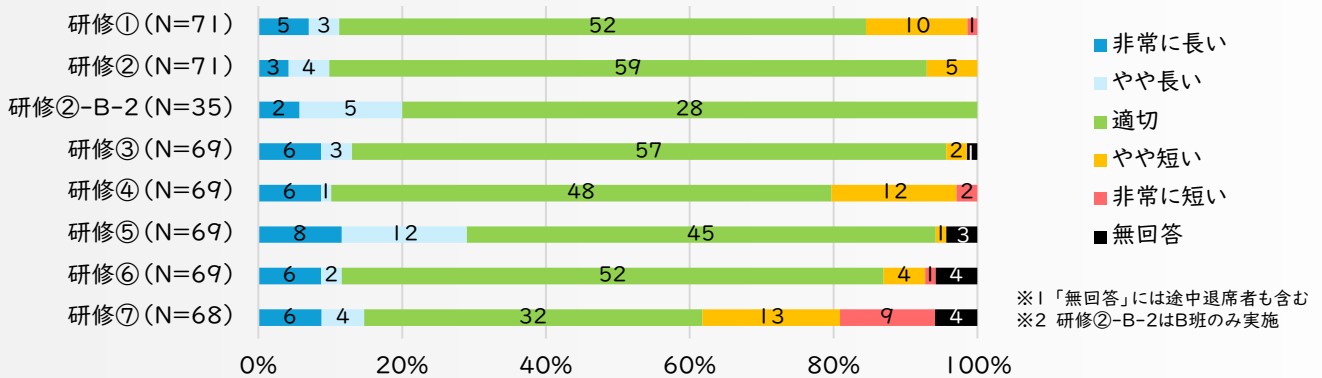
グループ協議の様子

令和7年度学校安全指導者研修会 開催報告 | 参加者アンケート

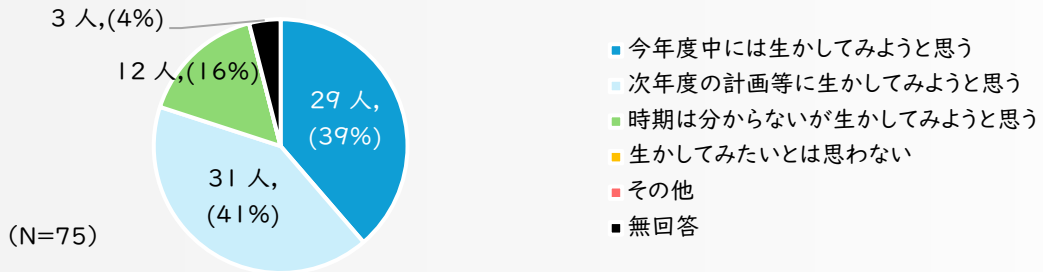
問：各地域において研修会を実施するにあたり参考となったか。



問：研修会の各プログラムの時間は適切だったか。



問：本研修会の内容を、各地域で行う研修会や所属学校園での学校安全に関する取組に生かしていきたいか。



問：本研修会において特に参考になった点はないか。（自由記述）

- 震災遺構を実際に見たり聞いたりすることで、ニュースなどでは知らなかったことやわかっていなかったことが多くあることを感じた。
- 災害・事故後の具体的な状況、対応の課題を過去の事例から知ることができた。
- 学校防災は生徒の安全確保だけではなく、発災後の長期にわたる避難所対応やその後の学校再開までの流れや生徒の心のケアまで含む、包括的な取組であることが分かった。
- 詳細調査まで移行した事案が無く、調査委員会設置のノウハウがないので、その必要性を認識できた。
- 矢部高校の取組について、危ないからこそ講習というスタンスが、自転車においても共通すると感じた。
- 砂取小学校での研修で、避難訓練や設備についての知見を深めることができた。

※一部抜粋

問：研修会の内容を、今後の学校安全にどのように生かしていきたいか。（自由記述）

- 避難所運営について、その現実と課題を広く伝えていきたい。研修内容の工夫、熱い想いを持って取り組んでいきたい。
- 本研修で視察させていただいた熊本地震の災害発生～復興までの内容について伝達し、一人一人の防災意識を高めていけるよう、取り組みたい。
- 毎年同じ訓練をするのではなく、どこを目的にするのか、どの場面を想定して行うのかを考えて行っていけるようにしていきたい。
- 避難所運営訓練において、学校・地域・行政の事前の確認や物事の優先性を確認する場を設けたい。
- 「ミニ避難訓練」、窓のサッシの溝に棒を入れる等の施設面の見直しを導入したい。
- 児童・生徒が主体となった防災教育・交通安全教育を安全管理に生かす。

※一部抜粋